

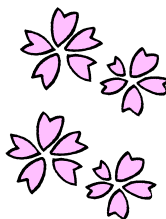
Topic 1

◇今春入試合格体験記 合格者喜びの声

飛田 光里くん

■合格大学：明治大学 経営学部

■学校名：松山高校 ■校舎名：熊谷中央校



●合格を手にしたの感想

高校に入学してすぐ、指定校推薦の存在を知り、この制度を利用して大学入試を受けようと決意しました。ただ、指定校推薦は学校の定期テスト1つ1つが重要になるので、合格が決まるまでの2年半は本当に長く辛かったです。それでも頑張ってきて本当に良かったと思っています。高校1年生の前期中間テストでスタートダッシュに失敗しなかったことから、今の自分まで全てつながっていると強く実感しました。

●俊英館に入塾して良かったところは？

私は、中学1年生の頃から俊英館に通っています。先生はとても優しくいつも気にかけてくれ、どんな質問にもわかるまで対応してくれました。高校・大学入試を無事に終えられたのも、俊英館の環境と仲間、先生のおかげだと思っています。

●後輩へのアドバイス

指定校推薦は長期間、常に頑張らなくてははいませんが、ライバルは同じ学校の同じ学年の子だけ。後輩の皆さんにもぜひこの制度を利用して大学受験を有利に進めてもらいたいと思っています！高校生活3年間を有意義に過ごしてください！

森 優斗くん

■合格大学：早稲田大学 文学部 文学科

■学校名：熊谷高校 ■校舎名：熊谷中央校



●合格を手にしたの感想

高2の夏から決めていた第一志望だったので、合格が分かったときはとても嬉しかった。志望校を決めた頃は、はるか上の目標で、模試でもE判定だったので努力した甲斐があったと思った。

●俊英館に入塾して良かったところは？

自習室を使い、分からないことがあったら先生に質問ができたところ。また、英語で自分の理解が足りていないと感じた種類のプリントを貰い、英作文の添削をしてもらったことがとても役立った。

●後輩へのアドバイス

できるだけ早く、志望校やセンター試験を見据えた勉強を始めるべきです。特に英単語は毎日続けたほうがいいです。勉強を始めて何ヶ月間は結果が出ないと思いますが、折れずに継続すると結果がついてきます。

4月になり新学期が始まります。だれもがフレッシュな気持ちで新しい学年をスタートさせることと思います。この時期に（特に高1の皆さんから）よく質問されることに「学校の予習の仕方は？」というものがあります。学校によって、教科担当の先生によって、指示内容がまちまちであったり、指導に熱心な先生が自らの担当教科の勉強を強く勧めるなど、悩ましい問題も潜んでいます。

すべての科目について、予習も復習も行うことが理想ですが、現実的には難しいでしょう。**教科の特性をとらえて、教科ごとに予習・復習の重点を変えることで効率よく予習復習ができ全体的に成績を上げることができます。**

◇定期テスト前の勉強だけで良い科目 = 社会(現代社会・地理など), 現代文

知識を詰め込むタイプの科目は、予習は要りません。定期テスト前に集中して暗記を行いましょう。課題プリントがある場合は、それだけはしっかり行いましょう。定期テスト前だけだと暗記が追いつかないという不安がある人は「授業前の休み時間に前回の授業内容を、ノートを見ながら思い出して暗記する」のが良いでしょう。これらの科目は、授業ノートのとり方がポイントです。定期テスト前に復習しやすいノートになるよう、工夫してまとめましょう（東大に合格する生徒のノートは美しいそうです）。



◇復習中心の勉強でも良い科目 = 数学, 理科(物理・化学)

問題を解くことが中心の科目は、復習中心で大丈夫です。授業で理解したことを問題演習に活かして「実際に問題が解けるかどうか？」がポイントになります。授業を受けた後に、学校の問題集をどんどん解きましょう。問題を解いた分だけ、成績が上がると考えてください。予習しないで授業に臨むと全く理解できないという科目であれば予習もしましょう。予習で大事なものは公式の「暗記」ではなく、公式の「理解」です。この公式はどういうことを意味しているのか、どのようにその公式が導かれるのかを「考えること」が予習です。

数学は問題を解くことが中心の科目なので、その意味では復習中心でよいのですが、現実的には「予習せずに授業に臨むと全く理解できない」可能性が大きいため、予習にも十分な時間を割くことをお勧めします。



◇絶対予習が必要な科目 = 英語(文法・読解), 古文, 漢文

辞書を使用する科目は絶対予習が必要です。もしこれらの科目の授業に、予習をしないで臨んだら、理解度・知識の定着度において、予習をして臨んだときと雲泥の差がつきます。予習を欠かさず行いましょう（ただし、私立理系の一般受験しか考えていないという人は、古文・漢文の予習はしなくても良いでしょう）。予習ノートは授業で書き込むことを前提にスペースを多めにとってください。また、予習ノートに単語・熟語の暗記スペースを作るとテスト勉強のときに役立ちます。

【例】英文読解の予習ノートであれば、左ページの左端に分からない単語を書くスペースをとり、右ページの右端にその単語の意味を書くスペースをとると「単語帳」のできあがりです。

中学時代に優秀だった生徒が大学受験に失敗するケースのほとんどが、高1時代の「英文法」をおろそかにした人です。高3になったときに英語が苦手な人は、その克服に膨大な時間を費やさなければなりません。逆に、高1で「英文法」をきちんとマスターしておくと、高2、高3と本当に楽ができますよ。



◇ 大学入試を基礎から知る

第1回 <大学選びの流れ>

言うまでもなく、大学は専門分野の学問を修めて、将来の夢を実現させるためのステップの場です。「入ること」それ自体が目的ではありません。したがって、卒業後、豊かな職業人生を歩むために「何をどのように学ぶのか」を重点において、慎重に選ばなければなりません。

また、大学の学部には、教員養成学部や医学部のように、修める学問と職業が直結しているものもありますが、ほとんどの学部では、「大学での学び」と卒業後の進路とが密接に関係しているわけではありません。高校在学中に就きたい職業がはっきりしなくても、大学進学後に自分の可能性や適性を探ることができます。その意味で、「どんな職業に就くか」よりは「どんなことを学びたいか」が学部・学科選択のポイントになります。「何を学ぶか」をきちんと考えずに進学して、「これは自分のやりたいことではない」「あまり興味が持てない」などと後悔しないようにしたいものです。

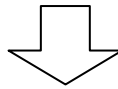
まずは、どのような分野に興味・関心があるのか、得意教科は何かを考え、それにつながる学問分野を調べることから始めましょう。

■ 大学を選ぶ流れ

第1期（高1・2）

将来を考える

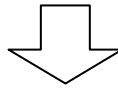
「大学で何を学びたいか?」「どんな能力や資格を身につけたいか?」「どんな仕事かしたいのか?」などを整理しましょう。



第2期（高1・2）

学問分野を調べる

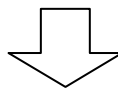
興味があることに関連するのはどのような分野の学問なのか、それはどの学部・学科で学べるのかを調べましょう。名称が同じ学部や学科でも、大学ごとに学ぶ内容が異なることもあります。その際、その分野が文系なのか理系なのかが大切です。文系と理系では入試科目が異なるので、慎重に検討する必要があります。



第3期（高3になる春までに）

志望校を決める

学びたいことや就きたい職業、そして入りたい大学が決まれば、自ずとやる気がわいてきます。目標を持つことでやるべきことも見えてきます。目標となる第1志望校を決めて、学習スケジュールを立てましょう。早期スタートが勝利へのカギです。



第4期（高3の夏までに）

受験校を決める

大学入試の制度や仕組みはめまぐるしく変化しています。また、志望校が国公立大学なのか私立大学なのか、一般入試で受験するのか推薦入試やAO入試で受験するのでも入試科目やスケジュールが大きく異なります。志望校の入試制度についてしっかりと調べるようにしましょう。そして、模擬試験の結果をもとに、実際の受験校を決めます。